北部地域学校新聞

発行者
福井市
教育総務課
（TEL：20-5341）
令和4年1月　Vol.2

小・中学校 整備方針検討

新中学校の配置計画（案）を提示

新中学校の建設候補地における配置案

11月に4回目となる策定委員会が開かれ、新中学校及び2校化後の各小学校における整備方針について議論しました。

新中学校は、学校づくりの大きな方向性について議論し、国や市が示している教育方針に基づきながら、「学び」「生活」「共創（地域連携）」「安全」「環境」の5つのコンセプト案について話し合いました。

委員からは、「教員が教え込むのではなく、子どもたちが学び合う環境が重要」「明道中学校や中藤小学校、至民中学校など市内における先進校の良いところを参考とするため、現場の教員の声を聞いてほしい」といった意見が出されました。

また、新中学校の建設候補地における配置イメージとして、市街地と農地に囲まれた現況を踏まえ、市街地との連続性等を考慮した北側に校舎や体育館、南側にグラウンドといった配置計画が示されました。

一方、2校化後の小学校は、前回の委員会で議論された内容を踏まえ、各々の校舎で約800人の児童を収容できる規模で整備する計画が示されました。また、2校の学びの環境に差が生じないよう、特別教室を含めた教室数は概ね同数となるよう整備する予定です。

全体の整備スケジュールとしては、令和8年4月の新中学校の開校後、令和8年度中に1年をかけて、現森田中学校を小学校へ転用するための改修を行い、令和9年4月に小学校を2校化します。

また、現森田小学校については、令和9年度からの2か年をかけて大規模改修をする予定です。

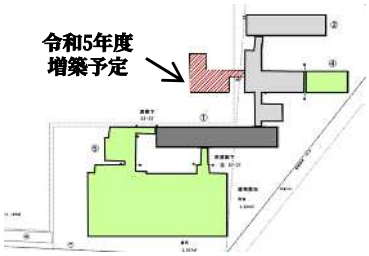
現森田中 令和5年度に一部増築へ

将来的な教室数不足解消に向けて

現森田中学校は、3学年5学級ずつの計15教室の普通教室を校舎内に確保しています。しかし、新中学校開校予定の令和8年度までに、普通教室数が不足する見込みとなっています。

そのため、将来の小学校2校化後の整備内容を見据えて、令和5年度に校舎の一部増築工事を先行的に実施する予定です。この工事では普通教室4教室分を増築する予定で、小学校2校化後（令和9年4月以降）の5年程度は増加が見込まれる児童の受け入れが可能となります。

その後の整備計画については、令和8年度に行う改修に併せ、給食室等の必要な機能の増築を行います。更に地区内の児童数の推移を見ながら、教室不足が発生しないよう、時期を見定めて必要となる教室数を確保していく予定です。



現森田中学校の増築予定箇所

～新中学校について考えよう～ 保護者向けワークショップ開催

12月5日と12月19日に新中学校の整備内容について考えるワークショップを森田小学校で開催しました。森田・河合両地区の未就学児及び小中学生の保護者を対象に開催し、1回目は19名、2回目は11名が参加しました。

1回目は、「理想の中学校」をテーマに、国が示した新しい学びの空間イメージをもとに意見交換を行いました。

2回目は、「新しい中学校」について、「学び」「生活」「共創」という3つのコンセプトの具体的な整備内容について意見交換を行いました。

今回のワークショップで出た意見については、現在策定中の福井市北部地域学校規模適正化基本計画の中に反映させる予定です。

【ワークショップの内容は裏面をご覧ください】

次回の策定委員会は
2月15日（火） 19時～
森田小学校
で開催予定です。

福いいネ！くん

～　ワークショップの結果まとめ　～

第１回　みんなで考える『理想の学校像』（12/5 開催）

＜参加者　１９名（森田地区１４名、河合地区５名）＞

・新たな中学校の整備内容を考えるため、まずは文部科学省が示した８つの新しい学びの空間イメージを見て、理想の学校像について意見交換を行いました。

空間イメージ	賛成できること	心配なこと	具体的なアイデア
横断的な学びや多目的な学びにも対応できる空間	・色々な学習に対応できる教室がよい	・<u>グループ学習などになじめない子への対応</u> ・このスタイルが中学校には合わない	・レイアウトを柔軟に変えられるとよい ・<u>個人が集中して学習できる場も必要</u>
学校全体を学びの場とした発表にも活用できる空間	・学校施設全体を学びの場としての活用に賛成	・他の学年との空間の共有ができるか ・<u>発表が苦手な生徒へのフォロー</u>	・大学の教室風にマイクとイヤホンを備えた通訳できる環境
ＩＴと図書館の連携など情報技術も活用できる空間	・調べる効率が上がる ・デジタル化により強みや弱点などが分かりやすくなる	・<u>ICT 機器の活用が、出来る子と出来ない子の差がつく</u>	・本や新聞を、廊下などでも見られるように ・他の学校、教育施設と連携のとれた環境
教員が情報交換や教材の製作などを円滑に行える空間	・学年、部活動など様々な場で先生同士のコミュニケーションができることに期待	・生徒の個人情報やプライバシー流出でいじめの問題につながる	・<u>先生にとって働きやすい環境</u> ・<u>先生に気軽に質問できる職員室</u>
居場所となるベンチの配置や木材を活用した温かみのある空間	・福井県産の木材を使用したぬくもりを感じられる校舎 ・可動式の部屋	・廊下のベンチ等は災害時に邪魔になりそう ・木造にすると暗くなるイメージがある	・天窓など自然光を取り込む構造
大人数での多様な活動にも活用できる体育館等の大きな空間	・学年関係なしの活動や授業にも期待		・防災拠点の機能 ・部活動など年中快適に活動できる場所（空調設備の整った空間）
地域の人たちとも一緒に学びや活動ができる拠点のような空間	・<u>地域コミュニティの活性化が期待できる</u> ・<u>地域の子どもは地域で育てるという意識醸成</u>	・セキュリティ面で不安	・外部の講師による地元ならではの体験学習 ・子育て世代、高齢者、生徒の多世代交流
図書館など他の公共施設と一緒になり多様な学びを集めた空間	・公共施設としての共有化は良いと思う	・セキュリティ面で不安 ・他の公共施設を気兼ねなく使えるか	・北体育館と連携して中学生が優先利用できる環境であるとよい

第２回　みんなで考える『新しい中学校』（12/19 開催）

＜参加者　１１名（森田地区８名、河合地区３名）＞

・１回目の結果を踏まえ、「学び」「生活」「共創」の３つのコンセプトで考えられる、新しい中学校における具体の整備イメージについて意見交換を行いました。

コンセプト	具体的なアイデア
「学　び」	＜学習環境＞ 自習室のような個別に集中して取り組める空間 パーテーションで柔軟に生徒数や合同授業等に対応できる空間 十分な教室スペースの確保 ＜学習方法＞ ICT 化を活用し、得意分野を伸ばす等、生徒ごとにカスタマイズできる授業 県内外を含めた他校と連携した合同授業 プレゼンテーションの機会確保 **<u>生徒が自発的に学習意欲を持てるような学習空間を</u>**
「生　活」	＜様々な生徒同士の交流＞ 全天候型の中庭等の全生徒が交流できる空間、柔軟なクラス編成 （森田：生徒のグループが固定的 ⇔ 河合：生徒数が圧倒的に少ない） ＜職員室＞ 生徒と教師が話しやすく、過ごしやすい空間（入口の壁を撤去、カフェのような空間） ＜ジェンダーフリー・バリアフリー＞ 多目的トイレや更衣室等の設置、保健室でのプライバシーガード **<u>各々の利用者・目的に適した居場所づくりを</u>**
「共　創」	PTA も一つのコミュニティとして積極的に学校に関わり、役員等の担い手も育成 住民で技術・資格を持つ人たちで人材バンクを創設し、地区の魅力を学ぶ出張出前授業 地区の年間行事で協働できるものを選択し、積極的に中学生が参加 生徒と地区が各々の活動（授業）に提案し、ともに学びあえる環境を **<u>「森田と河合」「保護者と地域と生徒」を繋ぐ空間を</u>**